

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900113		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町国府1061-153		
自己評価作成日	平成 24年 1 月 28 日	評価結果市町提出日	平成 24年 3 月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900113&SCD=320&PCD=24>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 24 年 2 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体に病院がある為、常に医師との連絡が取れるようになっていた。ホームの前に畑があり、季節の野菜を植え収穫を楽しんでいます。入居者様が、1日1日楽しく笑顔で過ごして頂けるように、個々に合わせたケアを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海辺の自然豊かな地域に建てられた事業所は、医療法人を母体として構成されている事により、介護職員だけでなく、医師・看護師・管理栄養士・社会福祉士等の専門的知識を有する職員が協働し、入居者が安心して過ごせる体制が整えられている。事業所内はこの土地ならではのゆったりとした空気感に包まれ、家庭的な雰囲気の下、入居者は穏やかに過ごしている。管理者は看護師の資格を持ち、その専門性を持って医師と協議し、疾患や薬剤、日々の症状やこれからの方向性についての確に判断する事が出来る、穏やかながらも頼もしい人物であり、入居者・家族からの信頼は厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員手作りのパッチワークを廊下・玄関に掲示し常に意識が出来るようにしている。また、月1回の会議で理念に基づいたケアが出来るように統一を図っている。	「ゆったりとした雰囲気の中で出来ることを分かち合い共に生活をします」を理念に掲げ、日々の支援の中で「業務遂行」に偏ってしまいがちな精神を律し、ゆとりを持ってケアにあたれるよう反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回老友会主催のカラオケクラブへ参加させて頂いている。また、地区の運動会、地域の行事にも参加している。	地域の老友会との親交が深く、カラオケ参加の他に、畑の手伝いの為の来所等相互交流に積極的である。事業所で効果的であった体操を職員が外部団体に指導する事もあり、地域への社会貢献に寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の研修会やカラオケクラブ等で認知症の介護について話が出るので、これまでの経験を活かし話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告、今後の予定や困っていることを相談し、様々な視点からの意見を頂きサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催されており、現況報告の他、畑での栽培指導や災害時の備蓄についての情報交換等、身近な事柄や時事に関する議題を取りあげ、活発な意見交換が成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には出席して頂き、意見・情報を頂いている。また、市主催の研修会には積極的に参加し交流を図っている。	市と協働の姿勢が高く、運営推進会議への出席はもとより、介護研修会を頻繁に主催し、職員の資質向上を図っている。役所訪問の際やメールでの相談には迅速かつ的確な解答を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を職員全員が理解している。日中は鍵を施錠していない。また、これまで身体拘束の事例はない。	昼間の施錠はしておらず、外出したがる入居者については音色が異なる鈴を装着し、寄り添いながら支援している。職員は玄関出入り時に名乗り、「入居者でなく職員の出入りだろう」という思い込みによる事故を防ぐ工夫が成されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。職員間で常に話し合い意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用していた方が見えたので、職員全員理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員・管理者・家族が十分話し合い納得した上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。隣接の老健施設でも苦情が受けられるようになっていく。面会時には必ず話を聞くように心掛けている。	家族は頻りに顔を合わす機会が多い職員には意見を口に出し辛い、といった背景を考慮した対策として、同法人老人保健施設の社会福祉士等、相談員への相談窓口が設置されており、要望の吸い上げに積極的な姿勢がみられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見交換をしている。個々に話をする機会を設けたり、ノートを活用し、意見や提案が出来るようにしている。	職員一人ひとりが日々のケアについて気づいた事等を記載し、全職員で回覧する「申し送りノート」は、入居者に関する事と業務に関する事の2冊用意され、漏れの無い意見の集約に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、各自の努力や能力が給料に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、経験年数を踏まえ参加している。また、研修報告を閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡協議会・グループホーム協議会に入っており、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、生活状態を把握できるように努めている。可能な限り本人様に会い話を聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞き入れ、事業としてはどのような対応が出来るか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員・家族と話し合い、利用者にあったサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援される側、する側と区別せず共に支え一つの家族として支え合える関係づくりに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月便りを発行し近況報告をしている。面会時には、日々の生活を話し本人を支えていく関係を築けるよにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で住み慣れた場所へ出かけたり、退所された方のところへ出かけたりしている。	自然に囲まれた地理を活かし、海辺や公園にドライブに行く機会を多々設けている。また、同法人内の医師が診察外で毎日入居者の元を訪れ、時には談話に加わる等、入居者の心の支えとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者同士の関係を把握しており、トラブルのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、定期的に面会に行き、他施設へ転所された方は折を見て会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、耳を傾け思いを受け止めるようにしている。また、家族にも確認し、強要することなく本人思いの生活を大切にしている。	意思を表す事が困難な入居者については、日々寄り添う中で、入居者の言葉にならない思いを表情やしぐさで推し量り、出来る限り意向に沿った支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活調査歴を記入して頂き、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに注目し、本人の全体像を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原則3か月の見直しだか、月1回の会議で現在困っていることを話し合い、状態に応じて変更している。	評価・見直しは共に3ヶ月毎に実施されているが、それに加え、月に一度の会議では、全職員が参加した多角的な意見を集約し、その都度状態に応じた計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護カルテに記入するとともに、個々の気づきノートを作成し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、外出等は本人・家族の希望を聞き柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で情報を地区の民生委員さんからいただき、地区の行事に参加する時はお世話になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続を確認している。かかりつけ医の継続が困難な方には、系列の豊和病院へお願いし、2週間毎に状態報告し必要に応じて受診している。	同法人の協力医をかかりつけ医とする入居者が多いが、家族の協力により入居前のかかりつけ医にも対応している。同法人であるネットワークを活かし、協力医とはFAX等で密に連携し、適切な医療を受けられる環境が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。24時間連絡が取れる体制になっており、緊急時に直ぐに駆けつける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、情報提供や相談連携を取るようにし、早期に退院出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の指針」について説明し、事業所が対応できるケアについて説明している。	同法人内に老人保健施設や病院があり、重度化についての連携が取られている為、現在看取りの実績は無いが必要に応じて職員研修や協議を重ね、看取りについての環境を整備していく用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、周知徹底している。研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。入居者様とともに単独の訓練を行っている。	隣接施設と合同で年に2回の防災訓練を実施しているが、今年度は防災意識の高まりにより、事業所単独にて実施している。夜間想定訓練もされており、有事の際、的確に行動できるよう体制が整えられている。また、近日中に発電機を設置する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄などの声掛けは他の方に聞こえないように職員で話し合い徹底している。	管理者は、家庭的な雰囲気留意しながらも、親しみやすさと馴れ馴れしさの区別を付け、敬意を払い、日々のケアにあたる事を職員に徹底している。また、個人情報が発言する際の場所にも気を配る様心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりした口調で話し、職員は決定的な言葉を使用せずに質問形式や選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状況に応じて時間変更をしたり柔軟な対応になるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は見守り、必要に応じて手伝っている。訪問理容では好みのカットにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の茶碗・箸・湯呑を使用し、職員と一緒に食事をしている。テーブル拭き・食器拭きなど一誌に行っている。	カロリーや栄養が計算された献立は、同法人内の管理栄養士によって立てられ、利用者の健康を支えている。また、誕生日や行事の際には、出前や特別メニューが取り入れられ、入居者の楽しみの1つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老健施設の献立をもとに調理している。管理栄養にアドバイスを頂きながら、個々に合わせた食事量にしている。食事量を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。週2回は義歯洗浄剤を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを記入し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導行い、可能な限り布パンツへ移行している。	管理者は排泄の自立に力を注いでおり、排泄パターンを把握と適切な誘導により、入居から1か月以内を目途に、可能性のある方はほぼ全員布パンツへの移行に成功させる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックし、便秘の方には運動を取り入れたり、水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂いているが、希望される方は毎日入浴して頂いている。入浴のタイミングは、個々に合わせて支援している。	入居者の体調や希望を考慮し、週3日の入浴を行っており、入浴剤の他時にはゆず湯等、季節を感じながら楽しんで入浴が出来る支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活状況を把握し、日中でも休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員全員が見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き。洗濯たたみなど1人1人の力が発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を取り入れドライブ等を計画している。天気が良い日には散歩に出かけるようにしている。	天候や体調に合わせてドライブを頻繁に行っており、外食や観劇等のイベントも多々企画されている。また、手作りおやつでの庭先での茶会や希望により買い物に出かける等、外の空気に触れる機会を多く持つ支援が成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは管理しているが、外出の際には本人で管理できる方には使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室と食堂が同じフロアーになっており、食事を作っている様子がわかり、鏡越しに職位と対話している。季節を感じていただけるようフロアの飾りを工夫している。	食堂兼談話室には畳のスペースがあり、遮光が十分で明るく開放的な雰囲気が漂っている。鏡を利用して職員が目が見えなくなる工夫が成され、長い廊下では見守られながら歩行訓練をする入居者の姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、畳コーナー・1人掛けのの椅子があり思い思いの場所でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具を置いたり、写真・絵を飾り本人が落ち着いて暮らせるように支援している。	居室はベッドと洗面台の他、クローゼットが備え付けられ、すっきりと片付いた印象を与える。持込みに制限は無く、これまでの生活スタイルに応じた過ごし方が出来る様支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じて適宜見直し環境を配備している。		